

採決ドキュメント

08:00 自民、公明両党の幹部が東京都内のホテルでの特別委の中継が見たくなる。アセス集中が会談。

09:00 新たな安全保障関連法案を議論する衆院特別委員会が全党出席でスタート

09:18 民主党の長妻昭氏が特別委で「国民の理解がまだ得られていない中、強行採決は到底認められない」と

10:00 衆院ホムムベージでの特別委の中継が見たくなる。アセス集中が原因で約1時間続

11:20 菅義偉官房長官が記者会見で「自衛隊も発足当時は9割ぐらいの学者が反対だった。今、自衛隊がなかったら生命と平和な暮らしが守れるかどうかは極めて疑問」

12:07 共産党の赤嶺政



安保関連法案の衆院特別委で、ピラを示した民主・辻元清美氏(左)の質問に答弁する安倍晋三首相。15日午前10時24分。飯塚晋一撮影

辻元氏「委員長やめて！」 浜田委員長 マイク使わず大声

賢氏が特別委で、審議継続を求める動議を提案。浜田靖一委員長はすぐに起立採決し、賛成少数で否決。民主党議員が委員長席に集まり始めるなか、審議終了の採決を賛成多数で可決

12:03 民主党の辻元清美氏が「委員長やめて！」と叫び、「お願いしますよ」と懇願。浜田委員長が持っていた議事進行用の紙の奪い合いが続くなか、浜田委員長はマイクを使わずに大声で政府案を採決。民主党議員が「ハンターイ」を大合唱するなか、賛成多数で可決。浜田委員長が大声で「成立をしました」と言い間違えると、与党議員は大きな拍手

12:30 共産党が臨時議員団総会。志位和夫委員長は「与党の横暴は、憲法9条を蹂躪する違憲立法を通しただけではない。国民のこれだけの反対を踏みにじったのは国民主権に対する蹂躪だ」

12:34 公明党の井上義久幹事長は記者団に「引き続き、国民の理解を得られるように努力をしていかな」といっている

松野氏「何でこんなに早く」 二階氏 支持率「また逆転」

12:38 社民党の吉田忠智党首は記者団に「強行採決は民意を踏みにじる暴挙。強い怒りを持って抗議をした」と

12:38 維新の党の松野頼久代表が記者団に「何でこんなに早く急いで採決するのか」

12:40 浜田委員長が記者団に「色々批判もあるかもしれないが、与党として責任を持って採決した。少々質疑と答弁がかみ合わないところもあった。もう少し分かりやすくするために、法律10本を束ねたのは記者会見で「乱暴な採決を

12:45 民主党と連合が「安全保障関連法案採決に反対する?」15緊急院内集会を開催。約300人が参加するなか、民主党の岡田克也代表は「時間をかければかけるほど、国民の反対が強まってくる。高まった。なんと早く店じまいしなければ、大変なことになる。これが安倍さんごの考えだと思っ」

14:00 民主党の榊葉賀経では風化するものではない。全国でそれぞれの議員が国民に説明する努力を重ねていくことになる

15:30 自民党の二階俊博総務会長がBS日テレの番組収録で「安保の問題が分かりにくいか、説明不足と言っているところが、(内閣支持率、不支持率逆転に)表れているのかも」

18:37 安倍晋三首相が記者団に「国会での審議はさらに続く。丁寧に分かりやすく説明をしていきたい。全国でそれぞれの議員が国民に説明する努力を重ねていくことになる」

視点

116時間の安全保障関連法案の衆院審議を全て見た。菅義偉官房長官は「(長時間の審議で)ほとんど同じような質問になってきた」と言うが、連日審議は十分に尽くされず、消化不良の感が否めない。同じような答弁で時間を積み重ねたのではないか。

最大の原因は、安倍政権が11の法案を一括で審議させたことだ。集団的自衛権の行使を盛り込んだ「武力攻撃事態法改正案」をはじめ、1法案だけでも1国会のテーマとなるものだ。1992年成立の国連平和維持活動(PKO)協力は3国会にまたがった。

議論を拡散した一括審議

援で自衛隊員のリスクは増えるか」の各論まで。元幹部自衛官で安全保障法制に詳しいはずの中谷元・防衛相も、たびたび答弁に窮し質疑がストップ。手元の出はあまり取り上げられなかった。

野党が法律のあいまいな部分を詰めようとしても、首相が「総合的に判断する」とかわす場面も目立った。自衛隊がどういう状況で武力行使するのか、法案の最重要部分をきちんと説明しない。「存立危機事態の『明白な危険』の段階とはいったい、か」と問われ、「『明白な危険』の段階で存立危機事態に認定しうる」。答えになっていない。

舞合は移る。政府は国民の理解を得たいのであれば、態度を改めるべきだ。参院審議の果たすべき役割は大きく、参院議員の使命感と質問力が問われている。(国会キック・山田明宏)